

授業づくりを振り返る

若手の先生方の授業を見ていつも感じるのは、みなさんがとても熱心だということです。ノートには本時の展開、板書計画、発問等をきちんと用意して授業されている方が多いです。しかし、子どもたちを見てみると、満足した表情をしていない子どもたちを見つけることもあります。何が原因なのでしょう。1学期前半の授業づくりを振り返り、授業改善を進めるために、以下の視点を参考にいただければ幸いです。

<授業改善の視点>

1 本時のめあて（子ども側の目標）を具体的に示す

- ・めあては、本時の目標を子ども向きの言葉で表現する。
(初発の感想を書こう→初めて読んでおもしろいと思ったこと、不思議に思ったことを書こう)
- ・評価規準（つけたい力を具体的な姿で表記）を設定し、個人差に応じた評価をする。
A基準：十分に満足した状況 B基準：おおむね満足した状況

2 板書計画を立てる

- ・子どもの反応を予想し、授業の流れがわかるように、シンプルにまとめる。
- ・めあて、キーワード、まとめ、児童の考え・つぶやき等「学びの足跡」を残す
- ・黒板と電子黒板の特性を生かして使い分ける。
(電子黒板：集団で考えるための文・図形、既習事項、前時の振り返り等 教師からの情報提供)
(黒板は、子どもの発言、考え、式、疑問等 子どもからの具体的な発信を記す。)

3 考えを揺さぶる問いかけ（発問）をする

- ・「主発問」 本時の目標に関わる中心的な発問。
子どもの反応を予想し、生活や体験とつながった問いかけをする。
- ・「補助発問」 主発問を補ったり、詳しくしたりする発問
- ・明確な問い 一度で問う 反応を待つ 教師はしゃべりすぎない。
- ・すぐに答えを言わない。 ・一問一答式にとどまらない授業を

4 子どもの活動場面を用意する 子どもが主役

- ・子どもの活動・演習の時間を確保する。
- ・「体験」と「対話」を重視する。
- ・自分で進度を決める場合もある。
- ・自由進度の注意点

気を付けよう

- ・自由進度という名の自習ではないか
- ・自力で学んでいるか、基礎基本は身につけているか
- ・ICT活用がコピペで終わってないか、情報は信頼できるか
- ・グループ学習という名の子ども任せ、自分の考えを言っただけ？

5 子どもの発言や意見・つぶやきをつなぐ

- ・子どもの意見を取り上げ、つなぎ、深めていく。「みんなはどう思う？」等
- ・ペアトークで子どもと子どもをつなぐ。ペアを交代する。
- ・子どもの伸びたところを認め、伝える。 ・学級で考えを共有する。
- ・間違った答えを、学びを深めるきっかけにし、子どもの自信や学ぶ意欲につなぐ。
- ・授業の中で出たつぶやきを聞き、重要かどうかを判断し、タイミングを見て使う。

6 「振り返り」で学びの手ごたえを感じさせる

- ・「まとめ」 学習の結果得られたことを共有する。いきなり板書するのではなく、子どもに問いかけ学びを整理させる。「今日のまとめは、どういうふうにまとめればいいかな？」
- ・「振り返り」 めあてに対して「できたこと」「わかったこと」「むずかしかったこと」「もっとやりたいこと」「友達から学んだこと」等 視点を共有し、自分の学びを深めたり、他の子どもの振り返りから気づきを得たりする。文字や言葉にすることで学んだことを明らかにする。
- ・授業の途中でめあてを振り返り、授業を軌道修正する。

7 さらなる授業改善の視点

① 身近な題材を例題にする

- ・「子どもの学びは生活に根差している」と言われます。子どもにとって身近な人物、建物、行事などを例題に取り入れて提示すると、教科書とは違って子どもたちは親近感を持って課題に取り組む場合があります。「えっ？〇〇先生が」「その場所なら行ったことがある」など、自分の生活と関連のある問題として考え始めるかもしれません。

② 今日の学習を既習事項とつなげる

- ・「今日の勉強は昨日とどこが違うかな」「ノートを見てもいいよ」などと呼び掛け、既習事項を振り返りながら、学習が継続していることを意識させることが重要です。

③ 「自分の授業パターンに合わない子どもがいるかもしれない」と考える

★ 授業が下手でもくずれない学級？ 「コミュニケーション力」を身につける。

- ・「授業が多少不器用でも、関わり方のうまい教師のもとには、子どもは安心して集まってくる
ことがあります」 そのためには

(1) 子どもの話を受け止める。まずはオウム返し。

(2) オウム返しに一言つけたす。 「へえ、〇〇なんや。それで？」

(3) 子どもの話をおもしろがる。笑顔でうなずき、あいづちを打つ。

(4) 子どもの価値観を受け止める。 「いいねえ」「おもしろいねえ」

(5) 「待つ」姿勢。場を安心させる。 「ゆっくりでいいからね」

(6) 相手を受け止め、優しく指摘する。 「あなたはがんばっている」「自分を責めすぎよ」

→問題行動の裏にある子どもの事情を想像する力になる。

→受け止めた上で必要なことを伝えるから助言として届く。